

英語の発音上達法

藤原保明

人から教わらずに英語の発音を上達させるにはどうすればよいか、その骨子を説明した。特に留意すべき点は以下のとおりである。

まず、英語を母語とする人の発音をラジオやテープでなるべく習慣的に聞き、耳を慣らす。新語を正しく発音できるようにするには発音記号の基本を理解することは欠かせない。

母音の場合、日本語にはない [æ a ə ʌ u] の発音をまず身につける。[æ] はやや長めに、[a] は口を大きめに開け、[ə] と [ʌ] はごくわずか開けるに留め、[u] は口をすぼめることが大切である。

子音の場合、英語の摩擦音は日本語の場合より数が多く、音質も異なる場合が多いことから、格別の注意が必要である。また、[t~d, p~b, k~g, s~z, f~v, ʃ~ʒ] のように、無声と有声では強弱の差が大きいことにも気をつけたい。子音連続の場合には間に母音を挿入しないことが大切である。

単語全体の発音は、アクセントのある母音は強く長めに、アクセントのない母音は弱く短めに発音するのがコツ。単語のアクセントが *nine* [náin] ~ *ninety* [náinti] ~ *ninetieth* [náintiəθ] のように一ヶ所だけにある場合、単語全体を発音するのに要する時間がほぼ同じになるようにすると英語らしくなる。

句の場合、*Japanése* ⇒ *a Jápánesé beetle*, *fiftéen* ⇒ *fifteen students* のように、アクセントが異動することがあるので要注意。

文の場合、たとえば、1) ~ 4) の文は語数が異なるが、アクセントの数が3つであるので、アクセントのない語は早く弱く発音し、文全体を発音するのに要する時間がいずれも同じになるようにする。

- 1) *Cáts éat físh.*
- 2) *The cáts éat the físh.*
- 3) *The cáts will éat the físh.*
- 4) *The cáts will have éaten the físh.*

イントネーション（＝高さアクセント）のポイントは、最も強調したいところで高さを急に変えることである。高さの変化の型は大きく4つあり、いずれの型を用いるかで、話し手の気持ちや感情が聞き手に異なって伝わるので、使い方が最も難しく、かつ、最も注意が必要なところである。